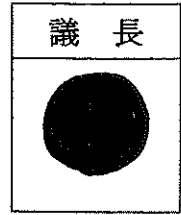


(書式5) 研究会・研修会等参加報告書



平成 31年 1月 28日

公明党議員会
松成国宏 殿

(会派名) 公明党議員会
(氏名) 松成国宏

研究会・研修会等参加報告書

下記のとおり実施したので報告します。

「立地適正化計画と地域公共交通網形成計画の整合性セミナー」

1. 会議の名称
14日午前： 立地適正化計画について

14日午後： 地域公共交通網形成計画について
2. 会議の日時
平成 31年 1月 14日 (月曜日) 10:00~12:30

平成 31年 1月 14日 (月曜日) 14:00~16:30
3. 会議の場所
東京都中央区京橋1-7-1カンファレンスセンター
4. 出張の期間
平成 31年 1月13日 ~ 1月14日
5. 参加議員名
松成国宏
6. 会議の概要

1月14日、10時から12時30分は中央区京橋のカンファレンスセンターにおいて地方議員研究会主催の講習会参加した。午前の部は、「立地適正化計画について」のテーマで早稲田大学スマート社会技術融合研究機構・電動車両研究院の客員教授であられる井原雄人氏のセミナーである。

先生は、これまでの研究開発プロジェクトとして、奈良県・本庄市・川崎市などの電動車両の開発や北九州市・高知県・瀬戸市・石狩市などで地域公共交通の計画策定、

また北九州市・釜石市・石狩市などのスマートコミュニティの計画策定などに取り組んでこられた。

まず、①生活拠点などに福祉・医療等の施設や住宅を誘致し、集約する制度や地方公共団体が中心となって、まちづくりと連携して面的な公共交通ネットワークを再構築するための新たな公共交通仕組みを構築する（いわゆる、立地適正化計画）と②地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせる様、地域公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める必要がある点など（いわゆる、網形成計画）とは、車の両輪であると先生は指摘する。つまり、「コンパクト+ネットワークの実現」を図るという事だ。

また、コンパクトシティが生み出す成果としては、財政や経済の面で、持続可能な都市経営が可能となるほか、緑地・農地の保全や災害危険性の低い地域の重点利用などの「環境・防災」にかかる成果、並びに、子育て・教育・医療・福祉の環境向上や高齢者・女性の社会参画、そして、高齢者の健康増進と言う「医療・福祉・子育て」においても多大な貢献をされると思われる。

以上、富山市や熊本市を先進都市の例として挙げられた。

午後のセミナーにおいては、人口が、例えば坂出市の場合、2040年には38,810人となることが予想されている。（セミナー参加者の市の数字を全部掲示して頂いた）

「地域公共交通網形成計画について」だが、これは、立地適正化と車の両輪だと、ここで再び強調したい要点だ。この年全体の構造を見渡しながら、住宅及び医療・福祉・商業その他の居住に関連する施設の誘致と、それと連携した地域公共交通ネットワークの再編を行うことにより、コンパクト+ネットワークの実現を図るものである。

茨城県の超割安な「年間通学定期券」や、京都市の観光利用者への「割引券」・などの例を引きながら、また、各交通の役割分担に関しては「豊岡市」の例を引き、また、過疎地・福祉の運送など、自家用有償旅客運送の現状の説明なども丁寧に解説され、示唆に富む内容であった。